

プロ野球

戸郷(聖心ウルスラ) 初先発

巨人、投打かみ合いV奪回

プロ野球のセ・リーグは、戦は3位に終わったものの、最後まで頂点を争った。6月18日に首位に立ち、7月中旬には最位と最大で10.5ゲーム差、8月に0.5ゲーム差まで迫られたこともあったが、首位は譲らなかった。

この日は、延岡市の聖心ウルスラ学園高出身の戸郷翔征が先発で初登板した。両チーム無得点の三回二死二塁で、本塁打を浴びたが、150メートルの直球を連発。4回で6球を投げ、

被安打4、4奪三振、2四死球だった。チームは1-2の九回、小林の適時打で同点。延長十回二死一、三塁から増田大の中前打で決勝点を奪い、その裏をテラロサが抑えた。

試合結果は次の通り。
◇DeNA-巨人2回戦 (巨人13勝11敗、21日、横浜) 巨人0000010113 DeNA000000002 (延長十回)

▽勝 大竹32試合4勝
▽S テラロサ26試合1勝8S
▽敗 三嶋70試合5勝4敗
▽本塁打 坂元(2) (戸郷)

原監督は「目的は勝つこと」を繰り返して、投手の踏ん張りどころではマウンドに出向いた。攻撃で大事な場面ではネクストバッタース、クルの選手に歩み寄り、肩を抱いて指示を送った。ときには厳しい表情も見せた。6月20日のオリックス戦、中前打で出塁した後足の重信が盗塁を試みなかったことに、物足りなさを感した。ベンチに戻ったときに呼び出し、「おまえさんの特長が生きていない」と指摘し、反省を促した。

今季の試合後「最善策」という言葉がよく聞かれた。この1点が重要と判断すれば、坂本勇や丸、岡本にも送りバントを指示。8月17日の阪神戦では「10年くらいやっていない」というクレイロにもバントをさせた。勝利のために特例はなく、最善策を選ぶ。指揮

官の勝利にこだわる姿は、確実にチームに浸透していった。

この日は、延岡市の聖心ウルスラ学園高出身の戸郷翔征が先発で初登板した。両チーム無得点の三回二死二塁で、本塁打を浴びたが、150メートルの直球を連発。4回で6球を投げ、

被安打4、4奪三振、2四死球だった。チームは1-2の九回、小林の適時打で同点。延長十回二死一、三塁から増田大の中前打で決勝点を奪い、その裏をテラロサが抑えた。

試合結果は次の通り。
◇DeNA-巨人2回戦 (巨人13勝11敗、21日、横浜) 巨人0000010113 DeNA000000002 (延長十回)

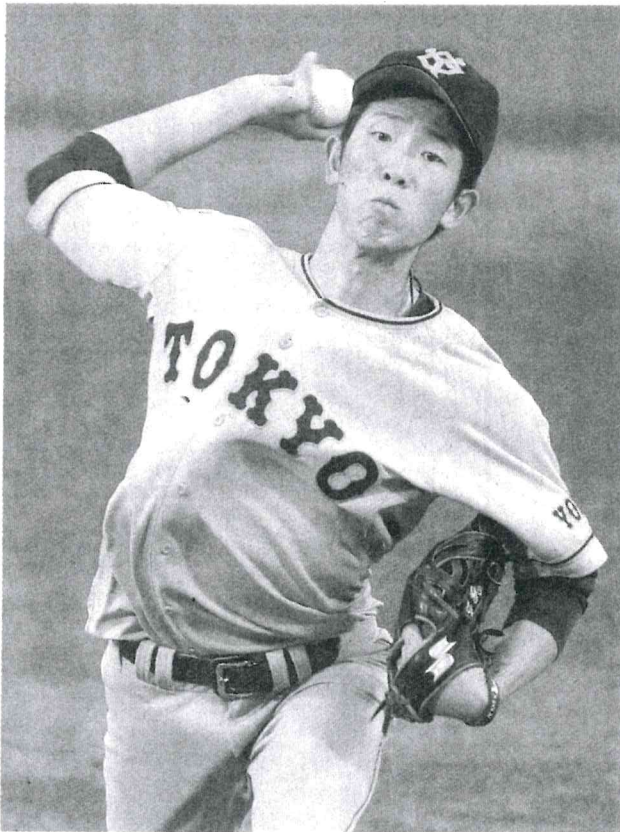
▽勝 大竹32試合4勝
▽S テラロサ26試合1勝8S
▽敗 三嶋70試合5勝4敗
▽本塁打 坂元(2) (戸郷)

原監督は「目的は勝つこと」を繰り返して、投手の踏ん張りどころではマウンドに出向いた。攻撃で大事な場面ではネクストバッタース、クルの選手に歩み寄り、肩を抱いて指示を送った。ときには厳しい表情も見せた。6月20日のオリックス戦、中前打で出塁した後足の重信が盗塁を試みなかったことに、物足りなさを感した。ベンチに戻ったときに呼び出し、「おまえさんの特長が生きていない」と指摘し、反省を促した。

今季の試合後「最善策」という言葉がよく聞かれた。この1点が重要と判断すれば、坂本勇や丸、岡本にも送りバントを指示。8月17日の阪神戦では「10年くらいやっていない」というクレイロにもバントをさせた。勝利のために特例はなく、最善策を選ぶ。指揮

官の勝利にこだわる姿は、確実にチームに浸透していった。

2018.9.20



力投する巨人先発の戸郷21日、横浜

原監督「目的は勝つこと」

勝利への執念が浸透

歓喜の輪の中に吸い込まれ、涙を浮かべ、非常に新鮮。年を取ると涙腺が弱くなるかもしれないと感じ、涙が溢れた。2015年に2度目だった監督を退任し、高橋由伸

1年目でリーグ優勝をつかむと、涙を浮かべ、非常に新鮮。年を取ると涙腺が弱くなるかもしれないと感じ、涙が溢れた。2015年に2度目だった監督を退任し、高橋由伸

板を見守った「チームの優勝を決める試合で初登板初先発し、あれだけの投球をしたのだから素晴らしいと思う。高校時代と変わらぬ強気に向かっていく姿勢が見られて良かった。卒業後、まだ半年しかたっていないが球速が160キロも伸びていくと、まじく感じた。この大きな経験を来年以降に生かし、大きな投手になってほしい。後輩たちの励みにもなる」

自分の投球はできた

巨人・戸郷(トヨタ) 6位の高卒新人が優勝の決まる試合で先発。五回途中失点に「本塁打を打たれた1球だけ、悔いが残る。三振も取れたし、いい緊張感の中で自分の投球ができたと思っ」

後輩たちの励み

聖心・小田原斉監督 (戸郷の高校時代の監督。テレビで教え子の初登

5年ぶりのリーグ優勝を決め、胴上げされる巨人の原監督

西の丸一善の会を認定

県

9/23 アダプト活動団体 河川清掃など継続的に実践

河川の除草や清掃など「アダプト活動団体」のボランティア活動を行う認定証交付式は18日、

和元年度 企業協働河川アダプト制度
アダプト活動団体認定証交付式



日向市中町の県日向総合庁舎であった。県北を中心に遊技場を展開する西の丸グループ（本社・門川町中須）のボランティア組織「二善の会」（会長 西谷栄一・同グループ会長）に、県日向土木事務所の中村安男所長が認定証を手渡した。

県日向総合庁舎で行われた認定証交付式。中央左が西谷淳社長、同右は中村所長

日向地区建設業協会とうち、日向市内の加盟業者で組織する「建和会」と、同市向江町の旭建設が登録されている。本年度は同会から応募があり、新たに認定した。

同会の活動区域は、市内を流れる塩見川左岸の中原橋―富高橋間の240㍓。今後、年2回ペー

スで区域内の除草作業など環境美化活動を行う。認定証を交付した中村所長は「長年、災害復旧支援活動や環境美化活動など、県内外でさまざまな活動をしていただいております、頭が下がる思い」とこれまでの取り組みに

感謝。同会を代表して出席した西谷淳社長（56）は「今回の認定に迷惑を掛けないように取り組みながら地域福祉を盛り上げていきたい」と抱負を述べた。同会は初回の活動を27日に予定しているという。